

紺碧

こ ん

ぺ き

春

SPRING
2024 vol.10

特集

地域を支える看護のチカラ



ICU看護師 | 埼玉石心会病院



外来担当看護師 | さやま総合クリニック



透析担当看護師 | さやま腎クリニック



訪問診療看護師 | さやま地域ケアクリニック



訪問看護師 | いきいき訪問看護ステーション 鷗ノ木



施設看護師 | 特別養護老人ホーム オリーブ

地域を支える看護のチカラ

石心会グループ 医療・介護・福祉の看護師たち

“人を見る”という視点で病院やクリニック、施設、訪問看護ステーションなど、地域のさまざまな場所で働く看護師。今回は地域で働く看護師たちにスポットライトを当てて、仕事内容やその役割について伺いました。

ふくち かおる
福地 郁

24時間365日、患者さん主体の「断らない医療」を実践し、地域の急性期医療を担っている埼玉石心会病院。ICU(集中治療室)には集中管理が必要な重症患者さんが入院しています。患者さんのみならず、ご家族の方にも目を向け、常に先を見越して考えることがICU看護師の役割だと思います。



ICU看護師

埼玉石心会病院

外来担当
看護師

さやま総合
クリニック

おの でら かな
小野寺 佳奈

さやま総合クリニックは埼玉石心会病院の外来部門としての機能に加え健診機能もあり、地域の皆さんの健康維持を助け、病気の早期発見・早期治療で生活を支援しています。外来は内科、外科、中央処置室と分かれており、若い方からご高齢の方まで1日に1,300人前後が受診されます。



かとう みなこ
加藤 美菜子

さやま腎クリニックは腎臓内科外来、多発性嚢胞腎外来なども併設し、あらゆる腎臓病を網羅し診療を行っています。患者さんとは透析の場面だけでなく、同じ地域の生活者という視点で、住み慣れたこの地域で透析が続けられるような支援を心がけています。



透析担当
看護師

さやま
腎クリニック

訪問診療
看護師

さやま地域ケア
クリニック

たもがみ きょうこ
田母神 恭子

さやま地域ケアクリニックは、機能強化型在宅療養支援診療所として24時間体制で医師または看護師を配置し、往診・訪問看護の体制を整え、必要時には入院も可能な有床診療所です。在宅医療室の看護師は、訪問診療に同行し、診療の補助や処置を行っています。



住まい

訪問看護師

いきいき訪問看護
ステーション 鶴ノ木

施設看護師

特別養護老人ホーム
オリーブ

まつばら なおこ
松原 奈緒子

狭山市・入間市に在住の方を対象に、近隣の医療機関や地域の支援事業所と連携を図り24時間体制で訪問看護を行っています。ご自宅に伺い、お薬の管理や傷の処置、点滴などの医療行為、生活の指導、身体の保清、リハビリ、介護相談など、支援は多岐にわたります。



わだ せつこ
和田 節子

オリーブは狭山市内で4番目の特養施設として、2000年3月に開設しました。看護師として利用者さんの体調の変化を観察し、生活全般を医療面から支援しています。看取りも行っており、生活の場として利用者さんとゆっくり関わることができるのが魅力のひとつです。



命を見守る最前線

ICU看護師として危機に寄り添う

福地 郁



ICU看護師

埼玉石心会病院

「断らない医療」の 実践の現場で

当院は「断らない医療」を掲げ、ICU（集中治療室）もそれを実践しています。ICUには集中管理が必要な重症患者さん（主に心臓に関する手術や治療を行った患者さん）が入院します。

新卒で勤務した大病院の高度救命センターやICUでは患者さんの容態の変化が目に見えて明らかでした。しかし、次に勤務をした精神科急性期病棟では目に見えるものだけじゃなかった。看護の難しさを痛感しました。そのような経験を経て、結婚や今後のキャリアを考えるなかで当院に転職しました。

当院は、二次救急を担っています。が、実際は三次救急に近い環境だと思っています。ハードな仕事ですが、集中治療医が心強くバックアップをしてくれています。

危機的な状況にある

患者さんやご家族への看護

大工になりたかったのですが、看護師である母に資格を持って働いたほうがいいと反対され、半ばその反意で看護師となりました。実際に働いてみると、人への貢献や患者さんの人生に関わる意義を感じ、徐々に意識が変わりました。危機的な状況の患者さんを、力を合

外来から見える療養支援

地域に根ざした外来看護

小野寺 佳奈



外来担当
看護師

さやま総合
クリニック

外来における 療養支援の在り方を模索中

当クリニックの外来、中央処置室で勤務しています。当クリニックは1日に1300人前後受診され、中央処置室では主に採血や点滴処置を行い、レントゲン（X線）やCT検査などで造影剤を使う際や内視鏡室の業務のサポートに行くこともあります。

以前の勤務先で退院支援を専任で行った経験を活かし、今は外来で療養支援を広げる準備に取り組んでいます。「入院後から退院まで」がメインの状況を、現在は「入院前、通院をし、生活をするなかでの支援」に重点を置いています。

また、当クリニックに転職後は子育てがしやすくなりました。同じ世代や先輩が多く、業務だけではなく、生活のことも相談しやすいです。子どもの急な休みの際にもお互い助け合いつつ、みんなで勉強しようという向上心を持ち続けています。

地域に特化した外来

継続看護を

スポーツトレーナーになるために大学に通っていた時の実習中に急病人に対応をする看護師さんを目の当たりにし、「私は看護師になりたい」と決心しました。大学卒業後、介護の仕事をしながら貯金をし、看護学校に入り直しま

せて支えられたとき、強くやりがいを感じます。

特にICUでは患者さんのみならず、不安を抱えているそのご家族への看護も大切です。患者さんやご家族へ、今なにができるのか、他職種とも連携し、先を見越して常に考えることがICU看護師の役割だと思います。

現在は病院内の医療安全と既卒者の教育を担当しています。転職した際、本人と病院に大きなギャップがないようなマニュアル作りに病院全体を巻き込みながら取り組んでいます。自分の軸は、患者さんたちが不利益を被らないようにすることですので、それを実践できるように精進します。

看護師歴 9年目

看護師になった理由 看護師である母に、資格を持った仕事をした方が良く強く勧められたことから。

ポリシー 「患者さんのために」を意識しています。

やりがい ICUで命を救う看護を提供し、患者さんの人生の中の大切な部分に関われること。



した。

当クリニックは地域に特化した医療を行っているところが強みです。検査の間の患者さんに「体調が良さそうですね」と声をかけたり、逆に「また会えて嬉しい」と言われたり、社会的な支援が必要な際は、専従の医療ソーシャルワーカー（MSW）へ繋いだりしています。こういった、コミュニケーションがとれる関係性に特にやりがいを感じます。

当グループの特徴でもあります。病院と訪問看護、訪問医療の事業所があるため、継続した看護がどちらの施設でも受けられるように、密に連携をとっています。

看護師歴 10年目

看護師になった理由 大学生時代の実習時に、急変した人の対応をしている看護師さんの姿に憧れて。

ポリシー 患者さんの気持ち、立場になって考えて行動する。

やりがい 外来診療時に、「また会えて嬉しい、ありがとう」など、患者さんから声かけしてもらえたとき。



生活の中の透析看護

全人的ケアを目指して

かとう みなこ
加藤 美菜子



透析担当
看護師

さやま
腎クリニック

多職種と連携して 患者を支える

時々入院、ほぼ在宅を実現するために

たもがみ きょうこ
田母神 恭子

訪問診療
看護師

さやま地域ケア
クリニック



さやま地域ケアクリニック

透析に通院する患者さんの看護 長期的な関わり

当クリニックでは、主に外来における透析の患者さん、またはその前段階の保存期にある患者さんの看護業務を行っています。治療や検査に加え、透析用の血管（シャント）や食事の管理など生活全般に携わっています。ベッド数は106床あり、昼間だけでなく夜間の透析も行っています。

血液透析中は、血圧の変動に注意して安全に透析が行えるように調整と観察をしています。また、長期的な経過による合併症予防のための生活指導も大切な透析看護です。

当クリニックには透析看護認定看護師が1名在籍しており、より専門的な看護を提供しています。

「なにかできることはないか」 をいつも思う

私は幼い頃から看護師に憧れていました。保育園の頃に身体の不自由な同級生に対し、「なにかできることはないか」と思い、看護師は私が抱く「なにか」を実現できる人だと映ったからです。未熟さを痛感して反省することもありますが、今では常に成長が求められることが私が思う看護師の魅力だと思っています。

血液透析の患者さんは週に数回顔を合わせるため、「今日は表情が暗いな」

看護師同士の「看看連携」や 多職種との調整役として

訪問診療では医師と共に患者さん宅を訪問し、診察の介助や胃ろう交換、気切チューブの交換などの処置の介助に入ります。訪問看護を受けていない患者さんの具合が悪くなった時には、医師の指示を受けて、私達が訪問看護師として患者さん宅を訪問し点滴や採血などの処置を行っています。

自施設のみで在宅医療を提供することはできません。患者さんを中心に開くケアマネジャーや訪問看護師などの他事業所で成り立つチームの一員として、ご本人やご家族が望んだ生活を送れるように、看護師同士「看看連携」や多職種間を調整する役割を担っています。

以前働いていた埼玉石心会病院では「このような状態では家に帰れない」と思うことがありましたが、当クリニックで働くようになってから「家にも点滴や治療など、できることがこんなにあるのだ」と衝撃を受けました。

当クリニックは19床の入院ベッドがあり、必要時は入院も可能です。そして、埼玉石心会病院や、さやま総合クリニックなどのグループの医療機関と連携し、協力しながら訪問診療ができることも強みです。

くらしの中で医療を続けられる ようにOneチームで支える

のような体調の変化・不調に気づくことができます。長く関わる関係性をとても大切にしながら、患者さんと医療を繋ぐための調整役として、他職種との密な連携も心がけています。

そのためには、透析の場面だけではなく、日常もあるという視点を忘れないようにしています。患者さんやご家族の生活背景に合ったサポートなど個別性のある看護を提供し、住み慣れたこの地域で透析が続けられるような支援を心がけています。また、透析治療に関係が深い循環器・内科領域、フットケアなどをとつと学び、成長したいです。そして、頼りにされる人になりたいです。



看護師歴 14年目

看護師になった理由 身体が不自由な同級生がいて、自分に「なにかできることはないか」と思い接していたことがきっかけで、人の役に立てる看護師を選ぶ。

ポリシー つねに誠実に向き合う。

やりがい 医療の進歩にあわせ常に成長することが求められること。フットケアなどの勉強にも今後は力を入れていきたい。

生活を知るケアマネジャーや日々のケアや処置を行う訪問看護師など他事業所と情報共有しながら、くらしの中で医療を続けられるようにすることが必要です。また、お看取りが近いと医師から告知された患者さんやご家族に対して、まだ状況の理解や気持ちの整理が追いついていない場合にも、患者さんを中心として関わるチーム全体で支えられるよう心がけています。

患者さんは皆さん、家だと表情が穏やかです。近年、病院から在宅医療への移行が進んでおり、医療介護専用のコミュニケーションツールなどを活用し、病院と在宅で切れ目のないケアが受けられるよう、継続した看護ができるように支援していきたいと考えています。



看護師歴 14年目

看護師になった理由 幼い頃に親が病気をした時、「助けてもらった」という記憶があり、高校生になり職業を考えた時、看護の道へ。

ポリシー 患者さん、ご家族の気持ちや、考えに耳を傾ける。

やりがい 「家に帰ってこられて良かった」という言葉や穏やかな表情を見たとき。

療養生活を支える

必要とされる嬉しさと責任感

まつばら
なおい
松原 奈緒子

訪問看護師

いきいき訪問看護
ステーション鶴ノ木



救急外来の現場から 訪問看護の魅力にどっぷり

訪問看護は病気や障害がある方のご自宅に伺い、その人らしい療養生活を送れるように支援するサービスです。お薬の管理や生活指導、身体の保清、リハビリなどに加え、傷の処置、点滴などの医療行為も医師の指示があれば行うことができます。

以前は埼玉石心会病院の救急外来に長く在籍していました。救急対応した患者さんが、帰宅後の生活の中で不安なく療養を続けるために、もっと自分ができることはないかと考えるようになり、看護部の訪問看護留学制度を利用して訪問看護ステーションで1年間研修を受けたところ、訪問看護の魅力にどっぷりはまり転向しました。

埼玉石心会病院系列の訪問看護ステーションという位置づけから、医療行為が必要な難病やがんの終末期にある利用者さんが多く、在宅で看取りをする方も増えています。長期に渡り関わることもあります。一人一人の利用者さんと同じく向き合い、意思や希望を尊重した看護を提供できることも魅力です。スタッフのチームワークもよく、看護の視点で主体的に動くことも新鮮です。

限られた時間や環境のなかで 訪問看護師としてできること

病院と違い異常を知らせるモニターな

利用者さんの生活を 医療面から支える仕事

医師が常駐していない特別養護老人ホーム（以下特養）では、看護師が利用者さんの体調観察、軟膏処置や、入浴の介助など、生活全般を医療面から支えています。普段の食事や入浴などの生活面はケアワーカーが主に見っていますが、夜間は看護師がなにかあれば家から駆け付けることになっていますので、ケアワーカーとこまめに情報共有しながら連携しています。

特養での看護は利用者さんの異変にいち早く気づき、病院に行くべきか様子を見るかの見極めが難しく感じます。また、週1回は委託医が来て診察があります。看取りの場合には夜中でも対応するのが特徴です。

働きながら看護師の学校へ 利用者さんの笑顔に救われる

小さい頃からなんとなく看護師になりたいと思っていましたが、高校を卒業後、10年ほど会社勤めをし、バブルが弾けたタイミングで埼玉石心会病院の募集を見て看護補助者の仕事をはじめました。仲良くなった学生さんに、働きながら看護学校に行けることを教えてもらい、資格を取得したのは30歳過ぎてからです。当施設は利用者さん、ケアワーカーの皆さんとも和気あいあいとしていて温かく、働きやすい職場です。

どもなく、自分の観察力・評価・分析能力が重要になります。救急外来での経験を活かせることも多く、やりがいを感じています。

最近はずいぶん電子カルテをタブレットで扱えるようになったことで、病院との情報共有がしやすくなりました。また、退院後の利用者さんの様子を病棟へ伝達し、継続看護や退院支援の強化にも力を入れています。

訪問看護師は限られた時間しか関わられません。本人の意思に寄り添い尊重することが大切ですが、支えるご家族が倒れたら大変です。そのため、ご家族の健康状態にも目を向け、関係職種とサービスマン調整を行うことや、不安や困りごとの相談がしやすい関係性を築けるようにも努めています。「看護師さん」ではなく「松原さん」と呼ばれることに、嬉しさと責任感を感じています。



看護師歴 24年目

看護師になった理由 テレビで見た救急病棟のドキュメント番組を見て看護師に憧れて。

ポリシー その時その時で最善の選択ができるように支援する。

やりがい 訪問中は一人の利用者さんに向き合って看護が提供でき、反応や変化を知ることができること。

特養は利用者さんの生活の場でもあるため、利用者さんと看護師という関係だけではなく、家族のような感覚で接しています。日々、利用者さんの笑顔に救われ、「ありがとう」という言葉をいただけるのが嬉しいです。コロナ禍でご家族の面会が減った時期もありましたが、なるべくご家族ともコミュニケーションを取るようにして、利用者さんが最期を迎えるとき、「ここで最期を迎えられてよかった」と思ってもらえるような看護ができたかと思っています。

特養は利用者さんの生活の場でもあるため、利用者さんと看護師という関係だけではなく、家族のような感覚で接しています。日々、利用者さんの笑顔に救われ、「ありがとう」という言葉をいただけるのが嬉しいです。コロナ禍でご家族の面会が減った時期もありましたが、なるべくご家族ともコミュニケーションを取るようにして、利用者さんが最期を迎えるとき、「ここで最期を迎えられてよかった」と思ってもらえるような看護ができたかと思っています。

施設看護師

特別養護老人ホーム
オリーブ

わた
せしこ
和田 節子

生活の場での あたたかい看護

家族のような存在として



看護師歴 28年目

看護師になった理由 埼玉石心会病院（当時は狭山病院）看護補助者として働いていた時、働きながら看護師の資格が取れると知ったから。

ポリシー 家族のように寄り添った看護をしたい。

やりがい 利用者さんの笑顔に救われています。



1 埼玉石心会病院 「令和6年能登半島地震」における被災地への災害支援活動について

埼玉石心会病院では、2024年1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」の災害医療支援として下記の支援活動に参加しました。

看護師派遣(日本看護協会災害支援ナース)

2024年1月14日～1月18日

珠洲市の避難所で災害支援ナース* (埼玉県・山梨県)として、同院の小林夕紀子看護師が協力活動しました。

医療・介護が必要な要配慮者へのケアや感染症アセスメント、環境衛生・感染管理措置への対応、隔離者のケアに加え、医療機関・福祉避難所への集約化の支援(病人、要介助者、要援護者のアセスメントと名簿作成協力等)といった業務に従事しました。

JMAT派遣(日本医師会災害医療チーム)

2024年2月4日～2月9日

能登半島地震の医療支援としてチーム(埼玉県隊)を派遣しました。

5名の同院チーム(渡邊隆明医師、桑久保千代美看護師、佐藤大致救急救命士、中山遼介救急救命士、平沼昌弘事務員)は、北海道チームと連携の下、JMAT本部(石川県庁)において本部統括業務を担い、主にJMAT隊の「部隊配置・指揮」「部隊入替え・ブリーフィング」「情報収集・分析」活動に従事しました。

地震発生から4カ月が経過いたしました。被災地の一刻も早い復興を心よりお祈り申し上げます。



避難所で活動する小林看護師

※災害支援ナースとは看護職能団体の一員として、被災した看護職の心身の負担を軽減し支えるよう努めるとともに、被災者が健康レベルを維持できるように、被災地で適切な医療・看護を提供する役割を担う看護職のこと。都道府県看護協会の会員で、実務経験年数が5年以上、災害支援ナース養成のための研修を受講していること等が登録要件。災害支援ナースによる災害時の看護支援活動は自己完結型を基本としている。



2 埼玉石心会病院 EMT 課『第3回救急救命士フォーラム』に参加

2024年3月17日(日)にさいたま市大宮区TKPガーデンシティPREMIUM大宮にて開催された『第3回救急救命士フォーラム』に埼玉石心会病院・EMT課が参加しました。

当日は、同課・板橋幸一課長が会を代表する大会長として講演・シンポジウムを行った他、熊谷淳係長、中山遼介救急救命士が『病院内救急救命士の果たす役割と教育』をテーマにシンポジウムに参加し、会場ならびにオンライン参加の大勢の聴講者を前に講演をいたしました。病院内で救急救命士が活躍していることはあまり知られていませんが、埼玉石心会病院のERでは救急患者さんを一人でも多く救うべく救急救命士たちが活躍しています。同院のERにこれからご期待ください。



(左から)中山救急救命士、板橋救急救命士、熊谷救急救命士

YouTubeにて公開中!
埼玉石心会病院『EMT課のご紹介
～断らない医療の最前線に密着!～』



共に働く仲間を募集しています 私たちと一緒に働きませんか!

石心会グループ 埼玉地区の各施設で看護師を募集しています。新卒の方だけでなく、既卒の方、ブランクのある方、時短勤務希望の方、子育て中の方等々、ライフスタイルに合わせた働き方が可能です。働く環境も病院、外来クリニック、透析看護、訪問看護、施設看護とキャリアや希望に合わせた選択が可能です。詳細は Web サイトをご覧ください、お気軽にお問い合わせください。



看護師インタビューシリーズ

埼玉石心会病院に勤務する看護師2人組が各病棟を巡り、そこで勤務する看護師にインタビューを行う動画「看護師インタビューシリーズ」では、普段あまり知ることのできない看護師たちの仕事内容や活躍ぶり、看護への思い、看護師同士だからこそ見える横顔や本音を紹介しています。

看護師インタビューシリーズはこちらから



埼玉石心会病院

看護師採用情報は看護部サイトから



さやま総合クリニック

採用サイトはこちらから



さやま腎クリニック

透析看護師採用はこちらから



さやま地域ケアクリニック

看護師採用情報ははこちらから



いきいき訪問看護ステーション 鶴ノ木

埼玉石心会病院 医療技術職採用はこちらから



特別養護老人ホーム オリーブ

採用サイトはこちらから



医師や看護師など病院で働く医療職者の仕事紹介をメインに公開している YouTube チャンネル「石心会グループ 医療職紹介チャンネル」では、埼玉石心会病院看護部に勤務する『看護師長の1日』やショート動画も公開しています。ぜひご覧ください。

「石心会グループ 医療職紹介チャンネル」はこちらから



病院がつくった健康情報サイト

みんなの健康塾ちゃんねる

WEB 詳細はこちらから



みんなの健康塾ちゃんねる

LINE 公式LINEはこちらから



医療情報を「もっと」
お手軽に GET!
LINE 登録してね!



優しくて頼りになる医療・福祉を目指します。

石心会グループ 埼玉地区

社会医療法人財団 石心会
埼玉石心会病院

〒350-1305 狭山市入間川2-37-20
TEL 04-2953-6611 (代表)
<https://saitama-sekishinkai.jp/>



社会医療法人財団 石心会
さやま総合クリニック

〒350-1305 狭山市入間川4-15-25
TEL 04-2953-9995 (外来予約センター)
〈月～金〉8:00～19:00 〈土〉8:00～17:00
〈日・祝日〉8:30～17:00
<https://sekishinkai-sayama-cl.jp/>
TEL 04-2900-2223 (健診予約)
〈月～金〉8:30～18:00
〈土〉8:30～12:30 〈日・祝日〉休
<https://www.sayama-doc.jp/>



社会医療法人財団 石心会
さやま腎クリニック

〒350-1305 狭山市入間川4-15-20
TEL 04-2900-3333
〈月～土〉8:30～17:00
<https://sekishinkai-sayama-jin.jp/>



社会医療法人財団 石心会
いきいき訪問看護ステーション鶯ノ木
〒350-1305 狭山市入間川4-10-15 TEL 04-2955-2060
<https://saitama-sekishinkai.jp/localcare/ikiiki.php>

社会医療法人財団 石心会
狭山市入間川・入間川東地域包括支援センター
〒350-1305 狭山市入間川4-10-15 TEL 04-2955-1114
<https://saitama-sekishinkai.jp/localcare/irumagawa.php>

社会医療法人財団 石心会
石心会介護支援センター
〒350-1305 狭山市入間川4-10-15 TEL 04-2953-6777
<https://saitama-sekishinkai.jp/localcare/sekishinkai.php>

社会医療法人財団 石心会
石心会ヘルプーステーション
〒350-1305 狭山市入間川4-10-15 TEL 04-2900-1302
<https://saitama-sekishinkai.jp/localcare/helperstation.php>

医療法人社団 東京石心会
さやま地域ケアクリニック
〒350-1323 狭山市鶯ノ木1-33 TEL 04-2955-5000
<https://sayama-care.jp/>

社会福祉法人 石心福祉会
特別養護老人ホームオリーブ
〒350-1313 狭山市大字上赤坂290-1 TEL 04-2950-2400
<https://sayama-olive.jp/>



Cover Photo Story

石心会グループ
埼玉地区の看護師



紺碧は、埼玉の広大な大地の上に広がる濃紺の空をイメージしています。地域の皆さんへ医療・福祉に関する情報を幅広く、深くお伝えしていきたいと思えます。



社会医療法人財団
石心会